

後援：渋谷区

本事業は「Shibuya Social Action Partner(S-SAP)協定」に基づき、教育・生涯学習に係る支援の一環として実施するものです。

國學院大學

受講料 無料

渋谷区民大学講座

21世紀の東京論

第1部 東京裏返し

一尾根を上る渋谷から川筋を這う渋谷へー

よしみ しゅんや

講師 **吉見 俊哉**

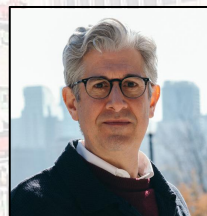
國學院大學 観光まちづくり学部教授



第2部 東京ヴァナキュラー

講師 **ジョルダン・サンド**

國學院大學 研究開発推進機構特別招聘教授
ジョージタウン大学教授(日本歴史学専攻)



日時

令和5年 10月28日(土)

第1部 12時50分～14時20分

第2部 14時30分～16時00分

受講料

無料

会場

國學院大學 渋谷キャンパス
学術メディアセンター 1階 常磐松ホール

申込

右記申し込みフォーム
からお申し込みください。

※定員に達し次第、
申込を締め切らせて頂きます。



どなたでも
ご受講頂けます！



問い合わせ

國學院大學 エクステンションセンター

✉ jigyou@kokugakuin.ac.jp

☎ 03-5466-0270

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

21世紀の東京論

第1部 東京裏返し

一尾根を上る渋谷から川筋を這う渋谷へ

講師 よしみ しゅんや 吉見 俊哉

國學院大學観光まちづくり学部教授・東京大学出版会理事長

上演論的アプローチから都市論、メディア論を展開、日本のカルチュラル・スタディーズで中心的な役割を果たしてきた。長く東京大学で教え、大学院情報学環長、大学総合研究センター長、教育企画室長、副学長などを歴任。現在、デジタルアーカイブ学会長、東京文化資源会議会長。

『大学という理念』（東京大学出版会）、『東京裏返し』（集英社新書）『大学は何処へ 未来への設計』（岩波新書）、『東京復興ならず』（中公新書）、『空爆論』（岩波書店）『敗者としての東京』（筑摩書房）等、多数。



近年、渋谷は嫌な街になった。地下は迷路のようで、地下深いホームから地上までに時間がかかる。駅周辺の超高層も威圧的だ。スクランブル交差点の鳥瞰映像は日々目にするが、写真映える街と歩いて魅力的な街は別だ。

半世紀前、70年代の渋谷で若者たちは丘を上った。パルコに至る公園通りは上り坂で、その坂周辺に小劇場やカフェ、ブティックが増殖していた。

ところが近年、若者たちが渋谷川筋を好んで歩き始めている。その嚆矢は、キャットストリートで、暗渠となった渋谷川沿いにブティックが並び、若者たちが集うようになった。その後、旧宇田川沿いが「奥渋谷」と呼ばれ始め、洒落た飲食店が並んでいく。最近では、旧東横線渋谷駅と廃線の上に誕生した渋谷ストリームから渋谷川に沿った緑道が整備された。

この講義では、こうした渋谷の変化を解説しつつ、渋谷という街が背負う歴史性と課題、未来への展望を示していきたい。

第2部 東京ヴァナキュラー

講師 ジョルダン・サンド

國學院大学特別招聘教授（2023～2024年）

ジョージタウン大学教授（日本歴史学専攻）

近現代の日本社会史について幅広く執筆。単著に『帝国日本の生活空間』（天内大樹訳、2015年）、『東京ヴァナキュラー：モニュメントなき都市の歴史と記憶』（池田真歩訳、2021年）、『House and Home in Modern Japan』（2003）、などがあります。2023年12月に『破壊と再生の伊勢神宮』出版予定。

巨大都市東京は20世紀に二度も焦土と化し、戦後数回の開発の波で姿を変えている。絶えず変化してきた東京の街に歴史的街並みなど過去の記憶を伝えるものは一見して他の多くの都市より少ないように見える。しかし、よく見ると実はさまざまな歴史の痕跡がある。

そして、この歴史的痕跡の重要性はますます意識されてきた。東京の歴史記憶がどう育まれてきたか。行政や専門家だけのものではなく、東京の住民の日常生活の中で生まれたものであり、そこに国家や政党の政治とは別の「日常の政治」がある。

今回の講義では、1970年代以降のまちづくり運動、地域博物館などで歴史記憶をめぐる日常の政治が展開してきた過程を探りながら、都市にとって記憶の価値は何かという根本的な問いを考える。

